

卒業生との連携による岐阜高専環境都市工学科におけるキャリア支援教育とその成果

岐阜工業高等専門学校環境都市工学科 フェロー会員 吉村 優治

1. はじめに

高専制度ができてから半世紀以上が経過し、実験と実習を重視した高専の実践的技術者教育は広く認められるところとなった。岐阜高専は昭和 38 年に設置され、創立以来、即戦力となる技術者を育成し続けているが、平成 7 年度には専攻科設置、平成 16 年 5 月に JABEE 技術者教育プログラムが認定されるなど大きな変革を経て現在に至っている。

本校環境都市工学科は平成 5 年に土木工学科から改組されると同時に大きなカリキュラム変更を行い、再び平成 19 年度入学生からカリキュラムの大幅改訂を行った。平成 19 年度の改訂の大きな特徴は、環境都市工学科で何を学び、卒業後はどのような仕事をするのか、社会基盤が持つ社会での使命、循環型都市づくりの必要性などについて学ぶことを目的に専門科目への導入教育として 1 年生にキャリア支援を兼ねた「シビルエンジニアリング入門」を配したことである。また、4 年生・5 年生に「総合演習」を設けて、就職・進学支援を行うなど、キャリア教育を重視したカリキュラムとなっている。最終改訂から 10 年を経過した平成 29 年度入学生から再びカリキュラムを改訂し、4 年生後期に「社会基盤工学」新設し、キャリア支援教育を充実した。

本報では、1 年生の「シビルエンジニアリング入門」および 4 年生の「総合演習」で実施している卒業生と連携したキャリア支援教育について紹介し、学生のキャリア支援に対する満足度について報告するものである。

2. 卒業生組織「岐阜高専建設技術士有志会」

岐阜高専には全卒業生で構成される同窓会組織「若鮎会」があり、社会基盤系（土木工学科・環境都市工学科）の全卒業生で組織する OB 会に、会員相互の連絡を密にし、親睦の向上を図ることを目的とした「岐阜高専土木会」がある。

これに対して、岐阜高専建設技術士有志会（以後、有志会）は、技術士の資格をもつ本校の社会基盤系卒業生の有志が、相互の資質向上に向けた情報交換、卒業生と在校生との交流及び本校環境都市工学科を支援することを目的として平成 19 年 8 月 31 日に設立されたもので、昭和 43 年に本校を卒業して企業や官公庁等で働く第 1 期生の多くは、この年に丁度定年退職を迎えるため、豊富な経験・知識・技術をもつこのシニア世代が中心となって、次世代の若い技術者に継承する場を本学科としても支援する体制を整えたものである。

3. 卒業生と連携したキャリア支援教育¹⁾

3.1 1 年生でのキャリア支援を兼ねた専門科目への導入教育

1 年生の「シビルエンジニアリング入門」は、前期 1 単位で社会基盤全般についての基礎知識を講義し、後期には有志会会員自身および会員の企画による講演、会員の企画による現場見学という形で平成 19 年度から支援を受けており、平成 30 年度現在も継続中のキャリア支援を兼ねた導入教育である。有志会会長の下に、国（国家公務員）等関係代表、岐阜県（地方公務員）等関係代表、民間関係代表が決められており、毎年、8 月頃の総会時に、学校側から後期の日程を提示することにより、3 つの各関係代表が現場見学会や講演の日程を調整し、授業内容を決定する。現場見学は、岐阜高専から半日程度で往復できるという時間的な制約はあるが、いずれの現場でも、岐阜高専 OB から説明を受け、将来自分たちがたずさわる社会基盤の重要性を目で見て、肌で感じる事が目的である。

3.2 4 年生を対象としたキャリア教育

1 年生でのキャリア支援を兼ねた導入教育に加え、卒業後の進路決定を控えた 4 年生を対象としたキャリア教育を平成 24 年度から開始した。その内容は、有志会会員自身および会員の仲介による本学科卒業生を講師とした学生全員を対象とした講演及び希望進路別の分科会に分かれての講師と学生との意見交換であり、「建設技術士有志会（学科 OB）による就職活動意見交換会」と呼んでいる。

本学科の進路の特徴は、図-1（過去 5 年間 2013～2017 年度）に示すようにとして、概ね民間への就職、公務員系への就職、専攻科・大学編入学の割合が 3 分していることである。進学（本校専攻科、大学編入学）

キーワード 工学，工業，教育，キャリア支援

連絡先 〒501-0495 岐阜県本巣市上真桑 2236-2 岐阜工業高等専門学校環境都市工学科 TEL058-320-1401

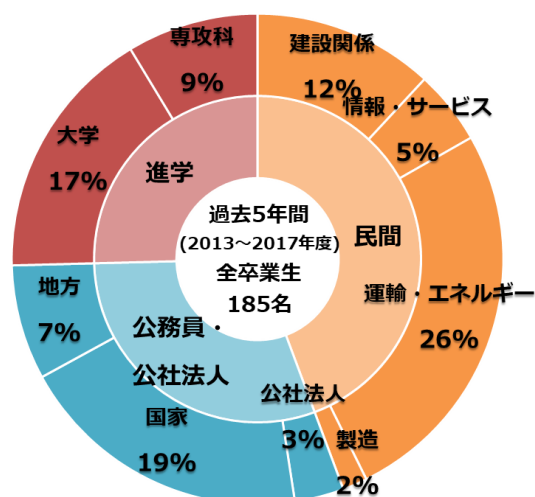


図-1 本学科の過去5年間(2013～2017年度)の進路

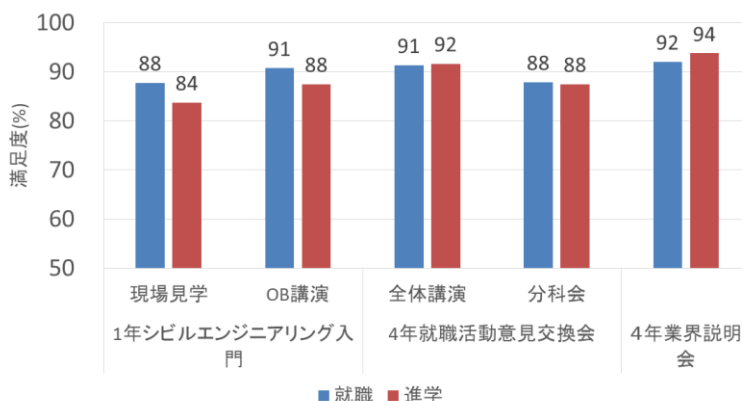


図-2 本学科のキャリア支援の満足度(H29年度卒業生)

した学生も卒業後いずれかへ就職(稀に教員になる者もある)る。

このような進路状況を鑑み、全学生に対して事前準備として、就職活動・進路選択に関する質問を提出させ、担任がこれを集約し、講師に話していただきたいことを事前に依頼する。就職活動意見交換会は、講師一人あたり10分程度の全体講演と1時間程度の分科会(進路状況を鑑み、官公庁志望と民間企業志望の2分科会)、その後学生にはふりかえりシートを作成させ、希望者に対して個別懇談会を実施する。なお、進学志望者には進学後の希望進路で分科会を選択させる。分科会では講師に学生からの質問に答えていただく形式をきっかけに学生と講師の間で意見交換を行う。分科会の司会は学科長と学級担任がそれぞれ担当する。

また、卒業生の来校時には専門学科教員の授業等を利用して、在校生が卒業生から話を聞く機会を積極的に提供している。特に4年生の後期には業界の説明会を兼ねて多くの卒業生に、社会人として自社を含む業界説明の機会を提供しており、たとえば平成29年度は、12/1～2/2の間に9回の業界説明会を開催し、18名のOB・OGが来校して話題提供をしている。

4. 卒業生と連携したキャリア支援教育のフォローアップ結果

平成29年度の卒業生40名(就職28名、進学12名)に対して卒業間際の2月に、就職、進学別に本学科が行ってきたキャリア支援の満足度に関するアンケート調査を実施した。図-2はその結果を示したものであり、1年生授業での現場見学、講演、4年生授業での就職活動意見交換会(全体講演、分科会)、業界説明会のいずれもが満足度で80%を越えており、就職する学生ばかりではなく、専攻科や大学へ編入学する進学の学生にとっても本学科が行っているキャリア支援教育に概ね満足していることがわかった。

5. おわりに

豊田、函館などの高専ではキャリア教育支援室を設けている学校もある中で、本学科は卒業生との連携により10年以上にわたりキャリア支援をおこなってきた。今回の満足度アンケート結果は本科がおこなってきたキャリア支援教育の妥当性を裏付けるものであった。今後も有志会との連携を一層密にし、現場見学や講演、就職活動意見交換会等を充実させるとともに本科のキャリア教育がより充実するよう努める所存である。

謝辞: キャリア教育が順調に行われ定着した陰には、経費の面で、国立高等専門学校の実践的技術者教育の充実と活性化のために文部科学省から交付されている企業技術者等活用経費(退職技術者を含めた企業の技術者を活用し、より高度な実践的技術者教育の展開を支援)を岐阜高専では平成20年度から28年度まで連続して採択されたことも幸いした。また、本校が平成26年度に採択された「文部科学省大学教育再生加速プログラム(AP): テーマⅠ・Ⅱ複合型(アクティブラーニング導入とその学習成果の可視化)」経費の補助も受けています。ここに記して謝意を表します。

参考文献: 1) 吉村優治: 卒業生との連携による高等専門学校におけるキャリア支援教育事例の紹介, 土木学会第72回年次学術講演会, CS1-022, pp. 43-44, (CD-Rom), 2017. 9/11～13.